

# きこえにくさの理解と支援



音や声がきこえない、あるいはきこえにくいことを聴覚障害（難聴）と言います。どれくらいきこえにくいのか、どのくらいコミュニケーションや日常生活に困ったことがあるかは人によってさまざまです。残存聴力を有効に活用するために補聴器や人工内耳という補装具を使う人もいます。

補聴器や人工内耳は、音を大きくする機械ですが、人の声だけではなく、周りの物音も同時に大きくしてしまうため、雑音がある場所では想像以上にききとりにくいことがあります。なるべく静かな環境の中でやりとりすることが、子ども達のことばを豊かにすることにつながります。



わたしが **耳かけ型補聴器** です

○教室内でできる配慮に、次のようなことがあります。

## 教室・学習環境では…



### ○座席の配慮

その子のきこえの様子に合わせて、よりきこえやすい、わかりやすい位置にする。（話し手に近く周囲の様子も見える前から2、3列目、右耳が聞こえやすい子は教室の左側にする。）等

### ○雑音を減らす。

机や椅子の脚にテニスボールを付ける。（該当のクラスだけでなく近くの教室や廊下でも配慮するとぐっと静かな環境になります。）等

## 行事や集会などでは…

### ○事前に分かっていることは伝えておく。

（どんな内容か、どんなルールか）等

### ○視覚的な情報を多くする。

（クイズは文字で提示する、合図は目で見える形にする。）等

### ○話のキーワードを示す。

（朝会や集会での話のキーワードを文字で見せる。）等

### ○さまざまな合図での配慮

（始まり、終わりの合図）等

## 授業では…

### ○話し方の配慮

文は短めで、はっきり、ゆっくりと話す。等

### ○口元が見えるようにする。

○新しいことばや聞きなれないことばは、黒板などに文字で提示する。

○英語の授業では、発音の仕方をカタカナで提示する。

○音楽の成果を評価するときには、本人の学習への意欲も汲み取る。

○何について学ぶかが分かるよう、教師は板書をしたりプリントを用意したりする。

### ○話し合い場面での配慮

話し手が誰なのかわかるようにするために、視覚的な支援をする。等

## 水泳指導では…



### ○補聴器の管理について確認する。

（いつ、どこで外して、どこに保管するか、髪の毛の乾かし方）等

○前もって教室で話せることは、伝えておく。

○モデルを示し、指示や学習内容を理解させる。

○手のサインや身振りで視覚的な合図を出す。

○簡単な表示を用意する。（検定のとき）等



烏山北小学校きこえとことばの教室では、月に1回程度きこえの通級児童が集まって共に学ぶ「きこえのグループ」指導を行っています。友達と仲良くなり、意見を出し合い、交流して学ぶグループ活動にしています。